

# 地域で見まもる

「おはようございますー」

集団登校で小学校へ向かう児童たちが元気な声  
であいさつすると、いつも同じ時間に、同じ場  
所で子どもたちを見守る大人たちが、その声に  
目を細め、自分の子や孫を見るような、そんな  
優しい目で「はい、おはよう」とあいさつを返す。  
市内各地で目にするこの朝の風景は、実はこの  
まちの将来を支える、重要な役割を果たしてい  
ました。

写真は、油井小学校区  
のあだち子ども見守り  
隊の方々と、児童たち  
を小学校まで見守った  
後、数名の方に集まっ  
てもらいました。前列  
の右から3人目が隊長  
の岡田正光さん(2代  
目)で、岡田さんは見  
守り隊のほかに、交通  
安全指導隊員も務めら  
れています。

平成29年度の調査によると、市内には、小学生の登下校などを見守ってくれる「子ども見守り隊」に登録している方が、約1200人ほどいます。この方たちは全員ボランティアで、各学校などから支給されるベストや帽子を身にまとい、子どもたちを見守ります。

活動内容とその変遷  
隊が発足した当初は、子どもたちの登校時だけでなく、下校時と同じように見守っていかうと、畑や田んぼ仕事をしている方々を中心に声を掛け、一時は隊員数が100人ほどにまでなりました。しかしなかなか継続が難しく、現在は登校時の見守りが中心となっていますが、それでも隊員たちは、子どもの下校時間に合わせて散歩をしたり買い物に出掛けたりしながら、常に何げなく子どもたちを見守っています。

## 見守り隊の発足

油井小学校区の子ども見守り隊の発足は平成18年。発足当初は、小学校へ通う子ども親が主なメンバーでした。当時、全国的に子どもの登下校中の事故や事件が多発していたこともあり、小学校やPTA、駐在所などが中心となって結成されたそうです。しかし共働きの家庭が多い現代において、親が毎朝見守り続けることは難しく、地域の有志に協力いただく現在の形に変化してきました。隊員の数は現在約30人で、会社を定年退職された方などが主なメンバーです。

全部で10方部ある油井小学校区では、各分部3人程度が、毎朝車の通行の多い交差点などに立ったり、集団登校の子どもたちと一緒に学校まで歩いたりしながら、子どもたちの登校を見守ります。隊員の方々には連絡網があり、都合が悪く朝出られないときなどは、前もって他の隊員に連絡をして、自分の持ち場のカバーをしてもらいながら、学区内の子どもたちの安全を支えています。

会の発足当時の小学6年生は、今では成人して24歳。隊



員の中には、発足当初から続けられている方も数名おり、『親子2代で見守られる』という世代が、そう遠くなく出てきそうです。

### 見守られているのは子どもだけではなかった

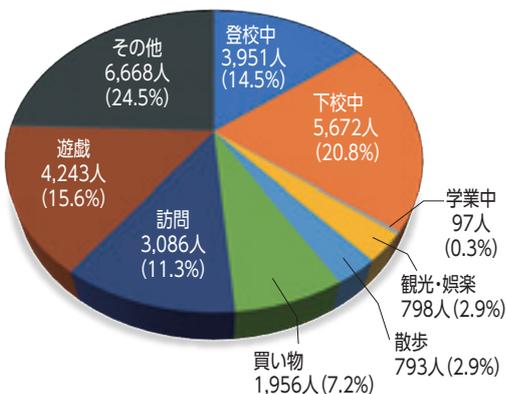
見守り隊の方々は、毎朝同じ時間に、同じ場所で活動しています。だから、その時間帯に通勤する大人たちも、自然と覚えてしまいます。信号機の無い横断歩道では、車を止めて子どもたちを渡らせるため、隊員たちは止まってくれた車の運転手の目をみながら、「ありがとう。いつてらっしゃい」と声を掛けます。初めは無愛想だった運転手も、いつしか車内からお辞儀をするようになり、笑顔で「行ってきます。」と応えてくれる方もいるそうです。この地域では、子どもだけで

なく、大人も毎朝見守られているのです。

### 子どもたちに元気を

「登校中の子どもたちを見ていると、昔に比べ元気がなくなっている気がする」とある隊員が話していました。そこで隊員たちは現在、『あいさつ』することに重点をおき、自分たちから率先してあいさつをするようにしています。毎日繰り返し、子どもたちもいつの間にか、元気な声であいさつを返してくれるようになってきているそうです。

小学生歩行中の通行目的別死傷者数  
 ≪H25～H29(5年間)≫



警察庁交通局発表「児童・生徒の交通事故」より

上のグラフからも分るとおり、登下校中の死傷者数は、全体の35.3%を占めている。

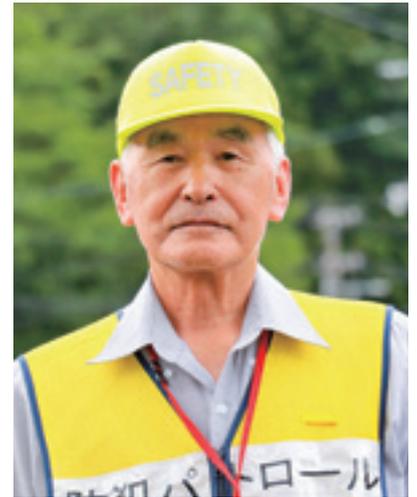
## 地域の子どもたちを、 歩けるうちは見守りつ づきたい

私は勤めていた会社を定年退職したあと、しばらくしてから、見守り隊の話があり入隊しました。一番年長だったこともあり、隊長を任せられ4年間務めました。

小学生たちが学校に通う日の私の毎朝の日課は、まず50分ほど散歩をし、家で朝食を食べた後に見守り隊として出掛けます。この毎朝の規則正しい生活は、健康にも良く、朝食を作る妻にとっても、時間が決まっているので良いのだと私は勝手に思っています(笑)。見守り隊を始めてから今まで、辛いと思ったことは一度もなく、逆に子どもたち



▲9年前に、当時小学6年生だった児童からもらった感謝の手紙と手作りの小物入れ。尾形さんは、当時の状態のまま大切に保管している。



### interview

油井小学校区・子ども見守り隊  
初代隊長

尾形 春男さん(智恵子の森・79歳)

平成18年に発足した油井小学校区の子ども見守り隊で、初代隊長を務めた尾形さん。隊の発足当初は、児童の保護者などが主なメンバーでしたが、尾形さんは自分の孫が小学校へ通っていたこともあって見守り隊となり、現在も続けている。

の夏休み期間などは、少し寂しさを感ずることもあります。私の子どもが小学校へ通っていた頃は、仕事も忙しく、参観日や運動会などの学校行事に出席することは全くありませんでした。しかしこの年になり、見守り隊をやっているおかげで学校行事に招待される機会があり、卒業式に初めて出席させていただいたときなどは、「自分の子どもたちもこうだったのかな?」などと思いを巡らせ、何か懐かしいというか、感激したのを今でも覚えています。

今年で13年目を迎える見守り隊。今重点的に行っていることは『あいさつ』です。最初はいさつをしない子どもでも、毎日こちらからあいさつをすると、いつの間にか子ども



もからあいさつをしてきてくれるようになりました。そしてうれしいのは、その子どもたちが中学生や高校生になっても、通学途中にあいさつをしてくれることです。

私はこれからも、歩けるうちは見守り隊を続けていくつもりです。子どもたちが、元気に楽しく学校へ行くのを、微力ながら見守っていこうと思っております。



～感謝の手紙～

心の中でいつも言っています。  
『ありがとうございます。』



油井小学校6年 佐久間 諒太くん  
1年生のころからずっと、尾形さんに登校中の見守りをしてもらっている諒太くん。普段口に出して言うことができなかった感謝の言葉を、手紙に書いてもらいました。

僕が小学校に入学してから、毎日一緒に学校まで歩いて行ってくれる尾形さんを、1年生のときは何とも思わずにいました。でも6年生になり登校班の班長になったことで、一緒に歩いて行ってくれることがすごくありがたいことなんだと分かりました。

最近、児童の連れ去り事件や、登校中の交通事故などをテレビなどで見聞きします。テレビの中だけではなく、僕たちの身近でも、不審者の情報などがあってすごく怖いと思っています。そんなとき、朝一緒に歩いて行ってくれたり、交通量の多い交差点や横断歩道などに立っていてくれる見守り

隊の方がいてくれるだけで、僕たちはとても安心して登校できます。

慣れた通学路を毎日何げなく通っていましたが、いろいろ考えると、見守り隊の方や地域の方の支えがあるからこそ、毎日安全に登下校できるんだと思いました。そして登下校だけでなく休みの日でも、会ったときには声を掛けてくれるので、いつでも見守ってくれているんだなあと改めて実感しています。

毎日の『おはようございます。』というあいさつだけで何も話はないけど、心の中でいつも『ありがとうございます。』と感謝しています。



今回は油井小学校区の子ども見守り隊をご紹介しますでしたが、市内の各小学校区には、同じように子どもたちを見守り続けている方々がたくさんいます。

二本松市内では昨年1年間、登下校時の事故や不審者情報などは、数件ほどしか確認されていません。これは、こうした地域の方々の目が、子どもたちを守ってくれていることを意味するものだと思います。

### 大人が元気なことが子どもを元気にする

子どもたちが元気に育つことは、地域みんなの願いです。今回取材をする中で、何人かの見守り隊の方々とお話をさせていただきました。その方たちに共通していたのが、皆さん元気で、笑顔が素敵なことでした。子どもたちを元気に育てるためには、周りの大人が元気で楽しくしていることが大事なのだ、改めて教えていただいたような気がします。

できる人が、  
できるときに、  
できることを

見守り隊として毎日継続して活動することは、決して簡単なことではありません。しかし隊員にまではならずとも、日常生活の中で子どもたちのことを少し気に掛けるだけで、子どもたちの見守りにつながります。たとえば、

- ・朝のごみ出しは、児童の登校時間に合わせる
- ・買い物やペットの散歩を、子どもの下校時に合わせる
- ・子どもの登下校時に、ご近所さんと井戸端会議
- ・塾や部活動の帰りは夜道が暗いので、家の門灯をつける

といったことをするだけで、見守り隊の方たちが行き届かないところまで見守りを広げることが出来ます。特定の人だけが行動するのではなく、地域の皆さんが日常生活の中で少し子どもを気に掛けた行動をとるだけで、その地域の見守りが継続されることにつながるのであります。

### 地域の宝

子どもたちにとって、安全なまちとは一体どういうまちなのでしょう。歩道を設置したり道路を広くするなどの施設整備はもちろんだ事ですが、地域の人たちみんなで見守ってくれることが、実は一番大事なことであり、そういったまちで育つことが、子どもたちにとって一番安全なのかもしれません。

子育て中の親というのはいつの時代も、仕事や家事など毎日忙しいものです。そのような中で、子育てや仕事有一段落した方々によるこうした見守り活動は、本当にありがたいことです。子どもは、各家庭の宝でもあり、その地域の宝でもあります。両親の共働きや核家族が多くなってきた現代だからこそ、これからの二本松市を支えてくれる宝を、地域で守り育てていくことが大切です。

地域の方々の何げない見守りが、このまちの宝を大切に育ててくれています。